

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

毎年、鑑賞を楽しみにしている白馬村文化祭会場に出掛ける。コロナ禍で思うような活動ができない状況で、村民一人一人がどんな

生活を営んだか知る機会でもある。

「文化」をもつのは人類だけ、もっぱら遺伝と本能によって支えられる動物には無いというのが通説だ。人間にとって「文化」は、遺伝と本能に加えて、経験と模倣、言語を通して集団としての思考、感情、行動を仲間から学習・取得して、獲得したものを同世代、後世代の人々に伝達する総体を文化と定義している事が多い。だからこそ人間として生まれたならば、文化を楽しまなければもつた、いやいだらう。展示会場の運営をする横

川秀明公民館長が一年間熱心に取り組んだ成果なのだろう。文化活動の成果を随所から感じ取る事ができた。

コロナウイルス感染対策や予算の関係もあるのだが、作品を展示するだけでなく、多くの村民に文化の大切さを伝える機会でもあ

「百花繚乱」と評価される地域を指したい

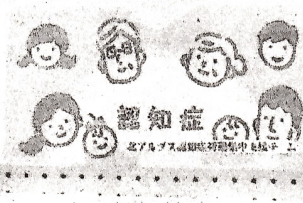
また認知症の理解を求めるコーナーでは、「認知症と脳の老化」の違いを紹介するパネル。何を食べたか忘れるのは「加齢による物忘れ」、食事の経験そのものを忘れるのが「認知症」など幾つか

の事例に、思わず我が身の日常行動をチェックしてしまい苦笑いしてしまう。他人事では無い、全ての人は社会の大切な一員だ。一人一人が認知症の良き理解者となれば、誰もが安心して暮らせる共生

る状態「優秀な人物が数多く現れ、立派な業績が一時期たくさん出ること」の意味だ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

認知症を正しく理解しよう

ご家族が認知症と診断されて、これからどうやっていいか、どんな介護が必要なのか、不安でいっぱいのごとき思いませんか。認知症についてよく理解してください。そして、その知識をもとに、ご本人と家族に向かい合う事が、より良い介護への近道になります。



白馬村文化祭の「認知症」コーナー。認知症への理解の必要性を改めて考えさせられる。